

**(議事要旨) 社会資本総合整備計画④
持続的な下水道事業の推進（防災・安全）（その3）の中間評価**

●委員

湖南中部浄化センターアクセス下水汚泥燃料化事業を実施中とのことだが、いつ完成予定なのか。

○下水道課

令和8年度末に完成予定である。

●委員

資料15ページについて、電力の排出係数による影響が大きく、県では対応が困難な部分かと思う。その中で、温室効果ガス削減を目標の指標値とすることは難しいのではないか。目標設定として妥当か、今後検討いただければと思う。

○下水道課

電力の排出係数の影響は大きいが、引き続き、温室効果ガス削減に向けた設備更新を進めていきたい。

●委員

ストックマネジメント計画の事業費を計算する際、基準年や割引率はどのようにしているのか。

○下水道課

例えば、検討する年を基準として、標準耐用年数が10年のものが7年経過していれば、検討した年から3年後に更新するシナリオと、目標耐用年数を1.5倍の15年として、8年後に更新するシナリオでの検討となる。

リスク評価や年間投資額等を踏まえた複数のシナリオを設備毎で検討し、100年後までシミュレーションし、最適なシナリオと標準耐用年数で改築するシナリオで比較し、事業費のコスト縮減効果を算定する。社会的割引率は4%を用いてコスト改善額を算定する。

以上